

今週の活動から



松江市立病院を視察し、翌朝出発前に松江城を見てきました。1611年（慶長11年）堀尾吉晴によって築城され、後に松平氏の居城として明治まで。松平不昧公が有名です。全国に現存する12の城の一つで昨年国宝に指定されました。地階は籠城用の貯蔵庫があり、深さ24メートルの井戸もありました。天守閣から眺めると、宍道湖、その先には松江市立病院が一望に。「弁当忘れても、傘忘れるな」というとおり雨に降られました。（栗山香代子議員）



人間ドックの結果がわかった後、減肥茶を購入し、栗山議員と一緒にせっせと飲んでいました。効果はいつ現れるのでしょうか。（釘丸久子議員）

11月の法律相談

11月24日（木）1時半～
前日迄の連絡を！

松江市立病院、病室から宍道湖を望む



説明を受けた会議室。壁面には大きなステンドグラス。

2枚目は新たな公立病院改革がイドラインに於いて、地域医療構想での役割の明確化、経営の効率化。

地方の公立病院の役割
医療提供、雇用で地域活性化
最初に、病院事業管理者（院長兼任）がスライド説明。
1枚目に自治体病院の役割として、地域完結型の医療の提供、不採算部門（救急、小児、精神）、高額医療、さらに雇用の場としての地域活性化があるとの話。



屋上からは宍道湖、国指定史跡も見えます。

宍道湖のシジミ、国宝指定の松江城
松江市は島根県の北端にあり、面積は572・99㎢、人口20万6407人（厚木市は93・84㎢、22万5503人）。シジミで有名な宍道（しんじ）湖があります。また、日本に現存する全国12の城の一つ・松江城が昨年国宝に指定されたばかりで観光客も増えているとのこと。

11月1日（火）・2日（水）の2日間、厚木市立病院特別委員会では島根県松江市の松江市立病院へ「病院の運営及び施設について」の行政視察を行いました。

化、再編・ネットワーク化、経営政策の見直しが行われました。その後、病院の理念や基本方針の他にモットーは愛情・信頼・奉仕と。全国学会受入で地域振興緩和ケア、がんセンターも病児・病後児保育も実施
具体の事業では厚木市立病院と違う部分が多くありました。学術活動に力を入れ全国学会を主催し、それによる地域振興も行っているとのことでした。
緩和ケア病棟は22床、がんセンターを建設中。地域への出前講座もしています。

人。うち医事課の5人中1人は本庁から、4人が病院採用で、来年は経験を持った人を一人増やすとのことでした。
敷地内には市の総合保健センターがあり市の事業である病児・病後児保育は市からの委託という形で実施しています。
厚木市立病院は新病院での医療機能はすべて整い、11月7日からスタートしています。
今回、松江市立病院の病室や屋上から宍道湖や隣地の国史跡の緑を見て、首都圏の市街地にある病院と地方の病院との役割や環境の違い等も改めて感じました。

	松江市立病院	厚木市立病院
経営形態	地方公営企業法 全部適用（昭和34年）	地方公営企業法 全部適用
入院患者数（年）	134,628人	89,482人
外来患者数（年）	194,549人	166,748人
ベッド数	470床	304床 (11月7日から347床)
医師数	86人	65人
看護師数	433人 (正規355人)	370人 (正規310人)
職員数（事務）	正規32人	正規32人